豊川海軍工廠戦没者名簿からみた豊川海軍工廠空襲の実態

豊川市平和交流館では、平和公園の開園に合わせ「豊川海軍工廠関係空襲犠牲者名簿」を閲覧できるようにしました。この名簿は昭和 20 年 8 月 7 日の豊川海軍工廠大空襲（昭和 20 年 5 月 19 日の空襲等も含む）の犠牲者（死亡者）について、新編豊川市史編さん時の調査資料及びその後の教育委員会生涯学習課による確認作業を経てデータベースを作成した成果を閲覧用資料としたものであり、各種資料から確認できた方及び可能性の高い方、合計 2,724 人分を掲載しています。

このうち工廠関係者として「豊川海軍工廠戦没者名簿」に掲載されている動員学徒も含めた工廠従業員については、その大半が名簿の並びや生年月日の記載事項から性別及び没年齢を確認でき、2,333 名に及ぶ膨大なデータから、豊川海軍工廠空襲犠牲者の実態の一端を明らかにすることが可能となりました。

まず性別全体では、男性 58.6%、女性 41.4%と男性の比率が高くなっていますが、20 代後半から女性の数が極端に低くなり、15 歳～22 歳までは女性の方が比率が高いといった状況がみられます。これは、12 歳以上の中等学校低学年や国民学校高等科の学徒の動員が男女ともに実施され、また 10 代後半から 20 代前半にかけては、女学生の学徒動員や全国から集まったとされる女子挺身隊（主として未婚の 14 歳以上 25 歳未満の女性の勤労動員）といった若い女性の工廠への動員が多かったことを反映したものと考えられ、豊川海軍工廠では、こうした若者や女性が軍需工場の生産の現場を支えていたことが分かります（図１）。なお、30 代～40 代は男性の工員（男性工員の多くも徴用された）が中心となりますが、年代別の比率では男女合わせ 20 歳未満が 54.8%も占めており（図３）、10 代後半を中心とした若者の犠牲が突出していたことが知られます。ちなみに、豊川海軍工廠の 8 月 7 日の工廠関係者の死亡者は全体で 2,513 人を数えることができますが、その中には動員学徒 452 人（17.9%）も含まれており、豊川海軍工廠空襲は、動員学徒と女子挺身隊を中心とした若者・女性の犠牲が多かったという実態が、統計的にも裏付けられました。

図１豊川海軍工廠空襲年齢別死亡者数（人：戦没者名簿より）

